



CAN-Japan - COP20/CMP10 リマ会議報告会

2015年合意の「要素」(elements) に関する議論

WWFジャパン
気候変動・エネルギーグループ リーダー
山岸 尚之

2015年1月21日(水)
日比谷図書文化館 日比谷コンベンションホール



本日の概要

1. 「要素」(elements)議論の位置づけ
2. 代表的な論点
3. 今後の見通し



「要素」(elements) ?

- 位置づけ



背景としてのCOP18(ドーハ)決定

2/CP.18 第9段落

9. Decides that the Ad Hoc Working Group on the Durban Platform for Enhanced Action **will consider elements** for a draft negotiating text no later than at its session to be held in conjunction with **the twentieth session of the Conference of the Parties**, due to be held from Wednesday, 3 December to Sunday, 14 December 2014, with a view to **making available a negotiating text before May 2015**.

9. ADPは、2015年5月までに交渉テキストを準備することを目指して、遅くとも、2014年12月3日水曜日から14日日曜日までの期間に開催されるCOP20と同時に関われる会合までに、交渉テキスト草案の要素について検討する。



2014年12月

COP20→「要素」の検討

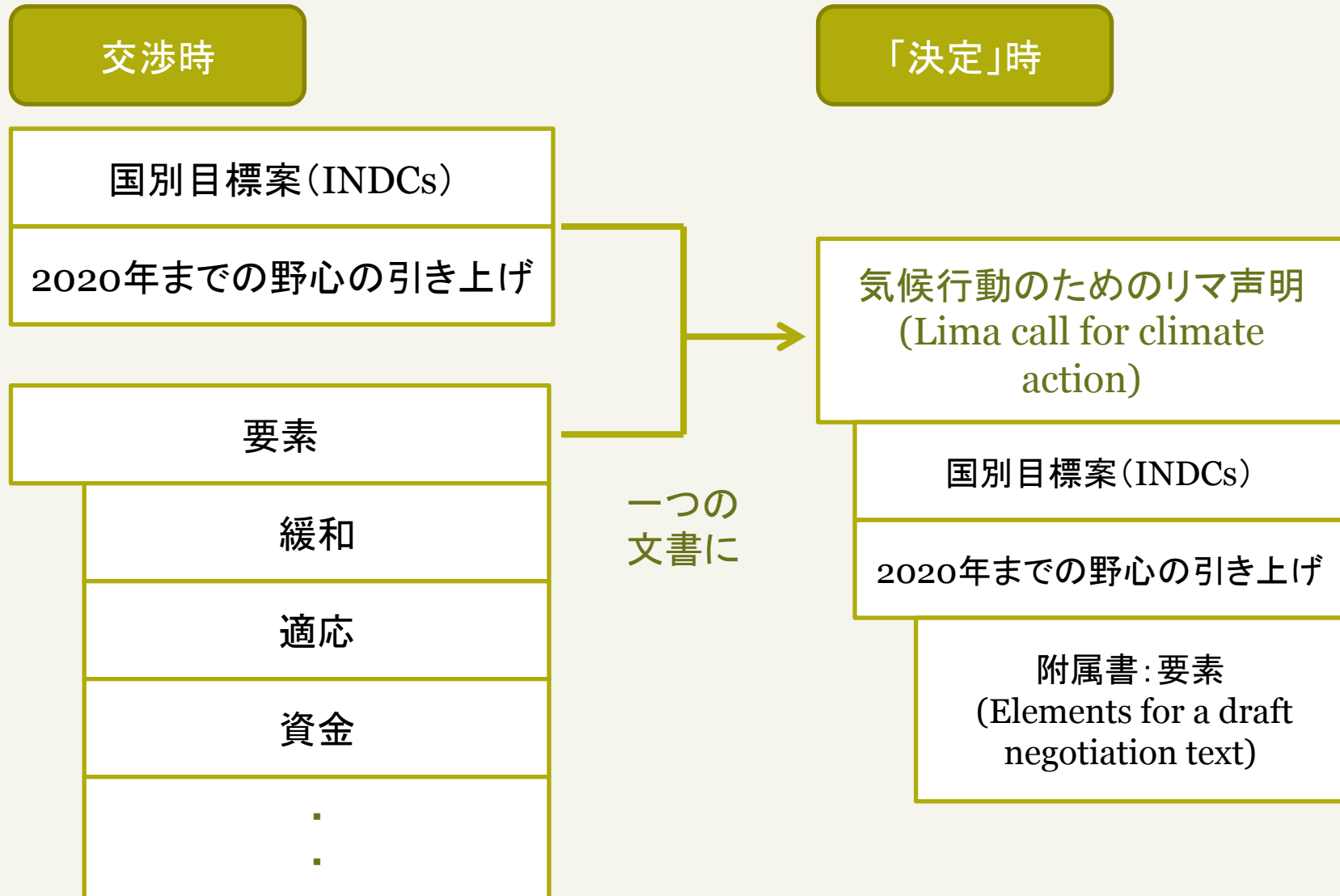
2015年5月

交渉テキスト草案

- 2015年合意の実質的な下書きに相当する。
- COP20で最終合意が求められていない。



今回の決定の中での位置づけ





要素ペーパーの構成

節	タイトル・英	タイトル・日
A	Preamble	前文
B	Definitions	定義
C	General / Objective	全般に関わる事項／目的
D	Mitigation	緩和
E	Adaptation and loss and damage	適応と損失と被害
F	Cooperation and support for implementation	実施に関する協力と支援
G	Finance	資金
H	Technology development and transfer	技術開発と移転
I	Capacity-building	能力構築
J	Transparency of action and support	行動と支援の透明性
K	Time frames and process related to commitments / contributions / Other matters related to implementation and ambition	約束、貢献、および実施と野心に関するその他事項に関わる時間的枠組および過程
L	Facilitating implementation and compliance	実施の促進および遵守
M	Procedural and institutional provisions	手続きおよび制度的規定

※これに附属書等が(必要に応じて)最後に付く。



選択肢を含む文書として附属書に

事例:「緩和」の中の長期目標に関する部分

D. Mitigation

Long-term and global aspects of mitigation

13.

13.1 ***Option 1:*** All Parties, in accordance with Article 4 and their common but differentiated responsibilities and respective capabilities and on the basis of equity, to enhance mitigation ambition and cooperate with a view to achieving the long-term emission reductions, in the context of Article 2 of the Convention, consistent with limiting the global average temperature increase to below 2 °C or 1.5 °C above pre-industrial levels and in the context of equitable access to sustainable development;

Option 2: All Parties to make efforts and cooperate on enhancing mitigation ambition to ensure that the aggregate level of mitigation commitments / contributions increases over time, so as to achieve the long-term emission reductions, in the context of Article 2 of the Convention, consistent with limiting the global average temperature increase to below 2 °C or 1.5 °C above pre-industrial levels;

Option 3: Parties to make efforts and cooperate to stabilize greenhouse gas concentrations in the atmosphere at a level that would prevent dangerous anthropogenic interference with the climate system, in accordance with the shared vision resulting from the Bali Action Plan, including holding the increase in global average temperature below 2 °C or 1.5 °C above pre-industrial levels in the context of sustainable development, with developed country Parties taking the lead by undertaking ambitious emission reductions and providing finance, technology and capacity-building support to developing country Parties.

- 各分野とも、各国の様々な意見を反映した選択しが並んでいる。
- 会議開始時よりも、「条約の文章らしい」書き方にはなっている。



代表的な論点

– いくつかの事例



緩和 — 長期目標(1)

- 論点: 長期目標を2015年合意に書き込むべきか? 書き込むとしたらどのような目標になるのか?

◆ 背景: 定性的な条約の究極目的をどのように解釈するかは大きな課題だった。また、取組み全体の指針となるため、長期目標が明確に書かれるか、書かれないかは緩和の他の部分にも影響する。

■ 争点

- 指標は?: 平均気温、排出量、濃度、炭素予算、エネルギー。
- 強さは?: 気温目標は2°C、1.5°C? 排出量削減目標は、2050年半減、ゼロ?

議論の構図

マーシャル諸島 / グレナダ

今世紀半ばまでに経済を脱炭素化

ノルウェー

2050年までに正味ゼロ

NZ

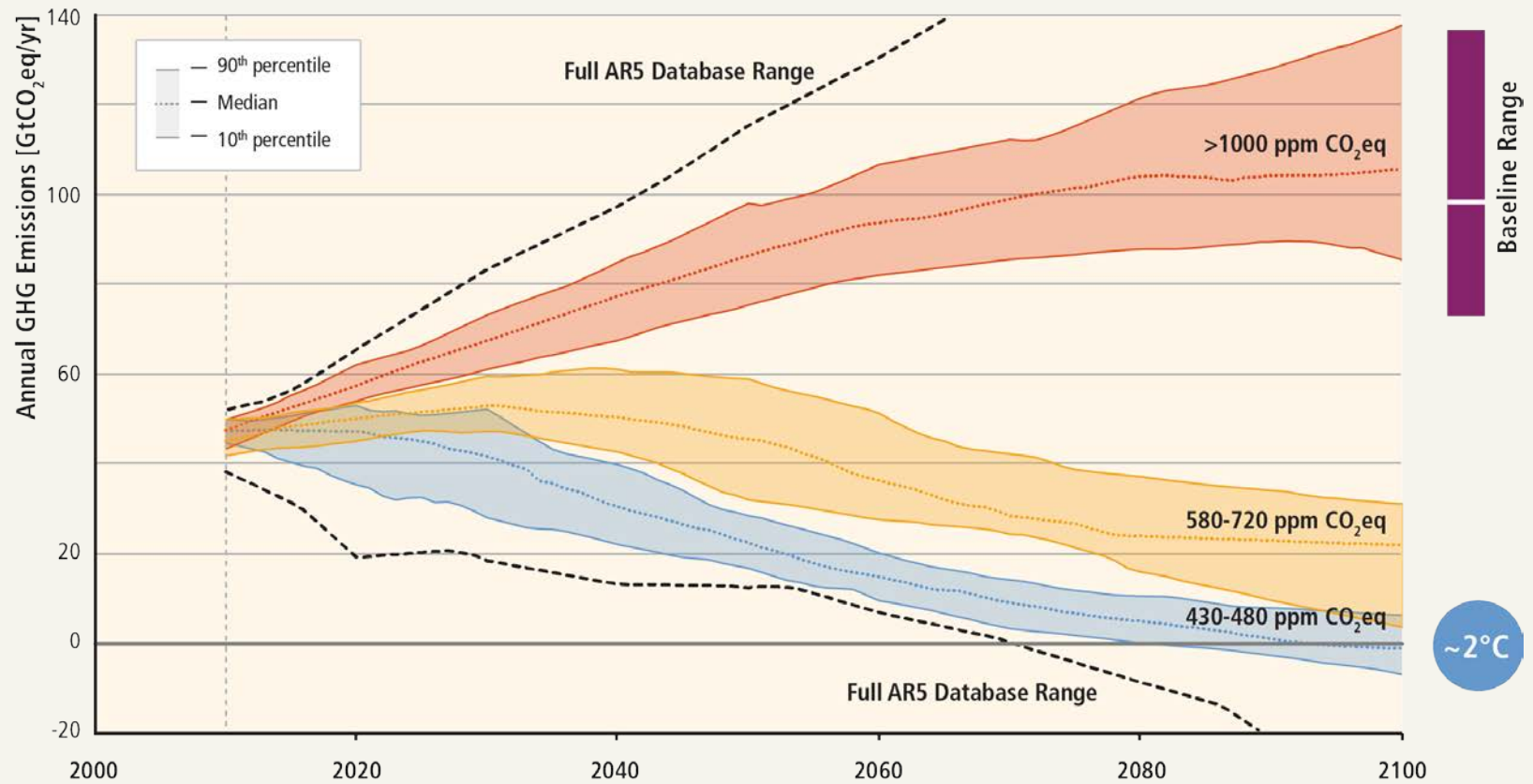
2100年までに正味ゼロ

ボリビア

1.5°Cと整合性のある排出予算



緩和 — 長期目標(2) IPCC AR5



(出所) IPCC AR5 Synthesis Report



緩和 — 「サイクル」の議論(1)

- 論点: 次期目標期間の長さは5年か、10年か? 全ての国に共通とするのか? 次の次の目標はどのタイミングで議論するのか? 一度設定した目標は期間の途中で見直しをするのか? するとしたらいつなのか?

- ◆ 背景: 2015年合意は、単に2025年/2030年の削減目標を作るだけでなく、その先も見据えて(2035年、2040年・・・)、目標の設定から、その実施の確認、見直しを含むサイクルを作るべきだという雰囲気が醸成されつつある。

議論の構図

EU 日本 韓国

10年
(+5年ごとのレビュー)

ブラジル
南アフリカ

5年+5年

LMDCs

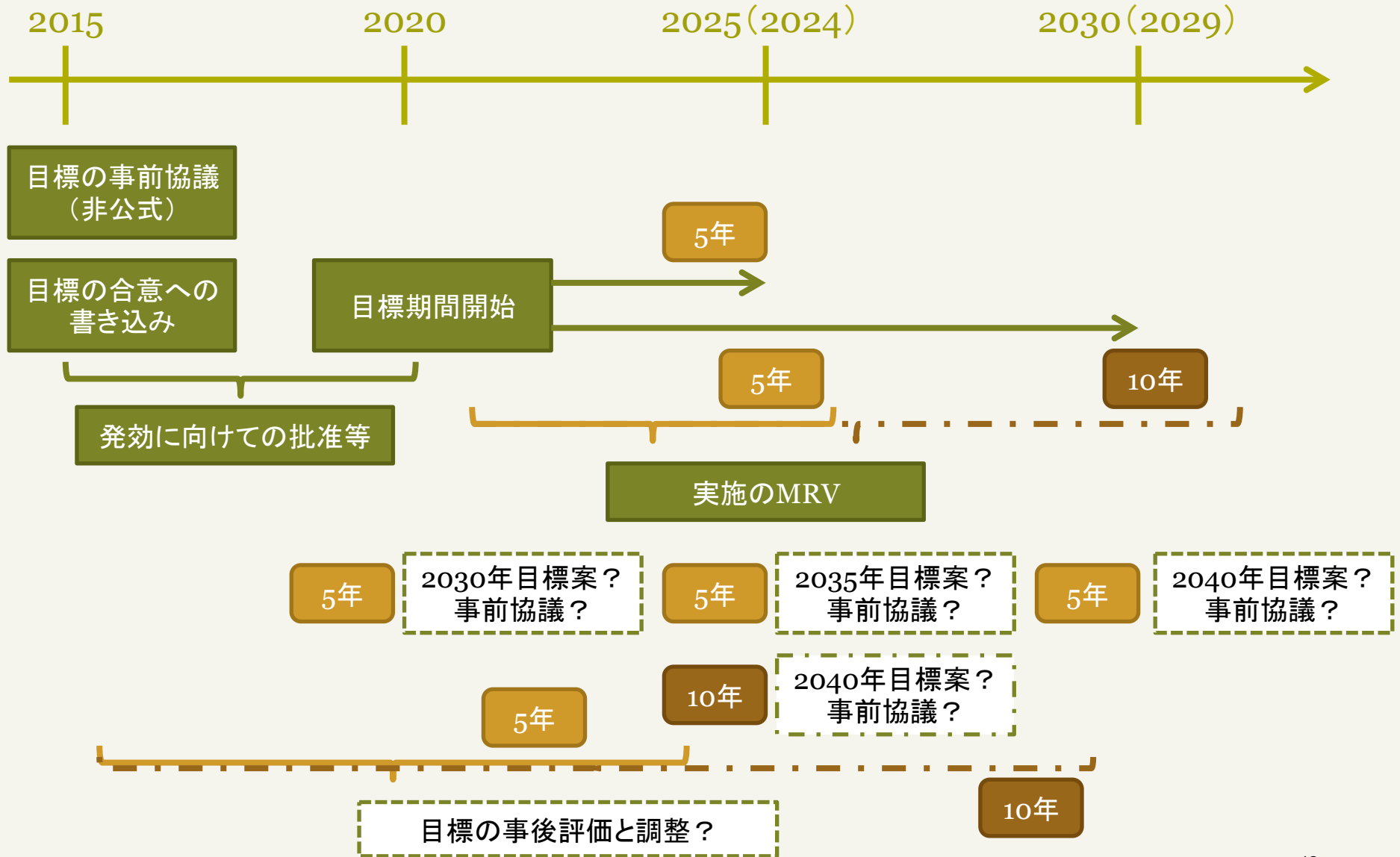
先進国と途上国で
明確に違う

アメリカ AOSIS

原則5年



緩和 — 「サイクル」の議論(2)





緩和 — 「サイクル」の議論(3) ブラジル提案

- ブラジル提案は、基本10年サイクル。
- ただし、目標を発表する時点で、前半5年と後半5年の性質を分ける。
- 前半の5年 (contribution term) は、確定した目標として扱われる。後半の5年 (indicative term) は、前半の5年が経過した時点で、レビューがされ、調整の後、確定目標とされる。

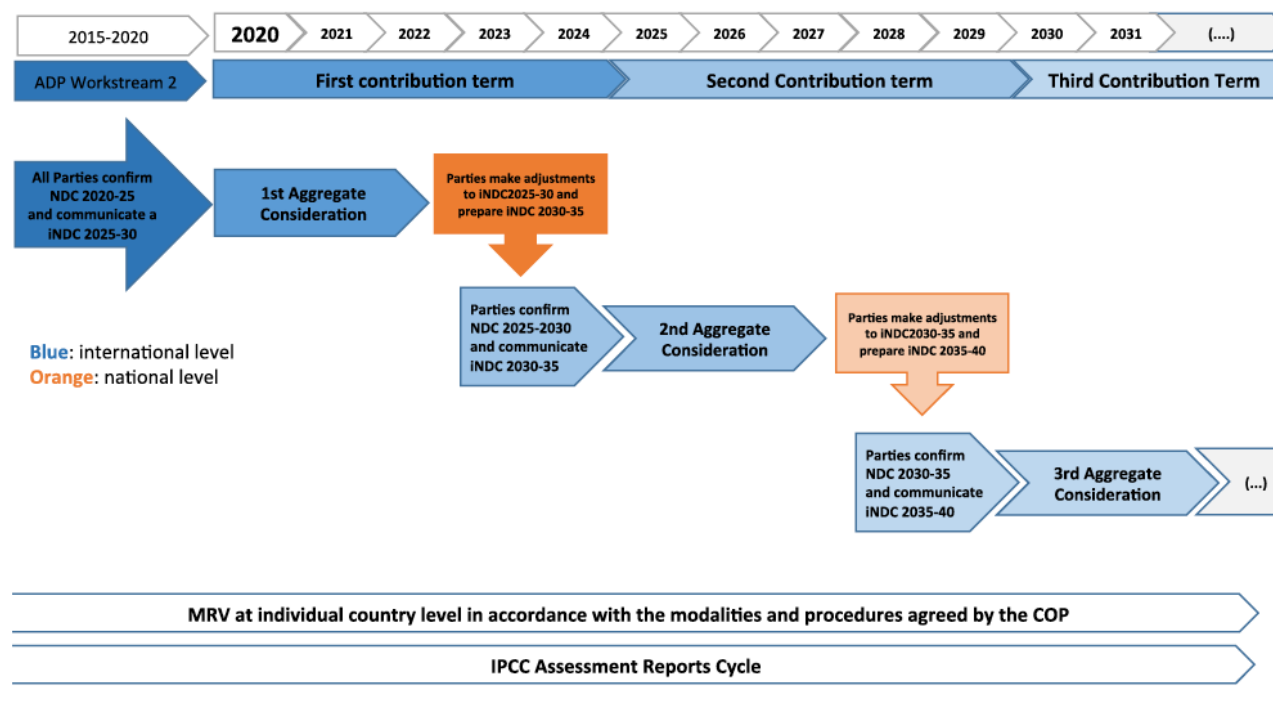


Figure 3: Dynamic Contribution Cycle



資金 — 目標と支援提供主体

■ 論点:どの国が、どの程度の資金支援を供給すべきなのか？

◆ **背景:**現状、2020年までに年間1000億ドルの資金を、気候変動対策(緩和・適応両方)のために動かすという目標がある。2020年以降は、どのような目標を掲げるべきかについて、先進国と途上国の間で対立がある。

議論の構図

先進国

- ✓ 2020年以降のような長期に渡る資金支援には、国別でも、グループとしても、約束できない。
- ✓ 途上国の中でも、できる国は支援に自主的に参加するべき。

途上国

- ✓ 目標は必要。
- ✓ 新規かつ追加的で、予見可能性が必要。



2015年の見通し

– 今後の交渉はどうか



3つのポイント

1. 2015年の交渉では主役

- パリでのCOP21までに要素ペーパーを合意に昇華させることが、今年の交渉の焦点

2. 中身以外に重要なのは「法的性質」

- 最終的な合意は「議定書」になるのか？
- 何が条約／議定書／その他の法的合意に入り、何がCOP決定に委ねられるのか？
- 排出量削減目標は法的目標になるのか？それとも？

3. COP21までに、どこまで決めるか

- 現状の要素ペーパーにまとめられている論点を全部決めきることは不可能
- どこに重点を置くのか？



(参考)コペンハーゲン合意の経緯

時期	文書名	ページ数
2008年 11月20日	FCCC/AWGLCA/2008/16 Ideas and proposals on paragraph 1 of the Bali Action Plan (<i>The Assembly Text</i>)	84
2008年 12月10日	FCCC/AWGLCA/2008/16/Rev.1 Ideas and proposals on paragraph 1 of the Bali Action Plan (<i>The revised Assembly Text</i>)	122
2009年 3月17日	FCCC/AWGLCA/2009/4 (Part I & II) Fulfilment of the Bali Action Plan and components of the agreed outcome (<i>The Convergence and Divergence Text</i>)	34
2009年 5月19日	FCCC/AWGLCA/2009/8 Negotiation Text	53
2009年 6月22日	FCCC/AWGLCA/2009/INF.1 Revised negotiating text	199
2009年 9月17日	FCCC/AWGLCA/2009/INF.1/Add.1 Revised negotiating text	27
2009年 9月15日・17日	FCCC/AWGLCA/2009/INF.2, Add.1&2 Reordering and consolidation of text in the revised negotiating text	285
2009年 12月11日	Chair's Proposed Draft Text on the Outcome of the Work of the AWG LCA under the Convention	7



この後、非公式なペーパーも含めた下書きをへて、5ページの「コペンハーゲン合意」に



©

®

WWF